

令和5年度の実施内容（基本設計、石垣調査解析）

1. 基本設計

1) 基本調査（8月～10月）

- ・修理工事報告書や復元整備報告書などによる類例調査（基本構法・内外観仕様）
- ・復元する坤櫓と同規模である駿府城等の復元事例調査

2) 遺構調査（9月～10月）（別紙1）

- ・坤櫓台や巽櫓台の表土（50cm程度）をはぎ、礎石の位置を確認
- ・櫓の柱の間隔を検証（6尺3寸または6尺5寸）
- ・櫓台や礎石の痕跡から、坤櫓の出入口2箇所的位置や幅を調査

3) 復元基本設計（9月～3月）

- ・往時の建物の姿を考証し、坤櫓や西側土塀の外観や構造を推定復元
- ・坤櫓、本丸西側土塀の3次元CG作成
- ・推定復元を基に平面図、立面図、断面図等を作成
- ・施工方法の検討
- ・建築基準法、バリアフリー法など、現代の法規制の確認、検討
- ・石材や木材など、材料の入手可能性の調査

[現時点の想定	坤櫓	高さ：約16m、	面積：約160㎡（1階）]
		土塀	高さ：約2.5m、	延長：100m	

2. 石垣調査解析

1) 測量（8月～9月）

- ・現地測量により平面図や石垣等の横断図を作成

2) ボーリング調査、土質調査（9月～10月）（別紙2）

- ・ボーリング調査 5箇所
- ・採取土による土質調査、試験

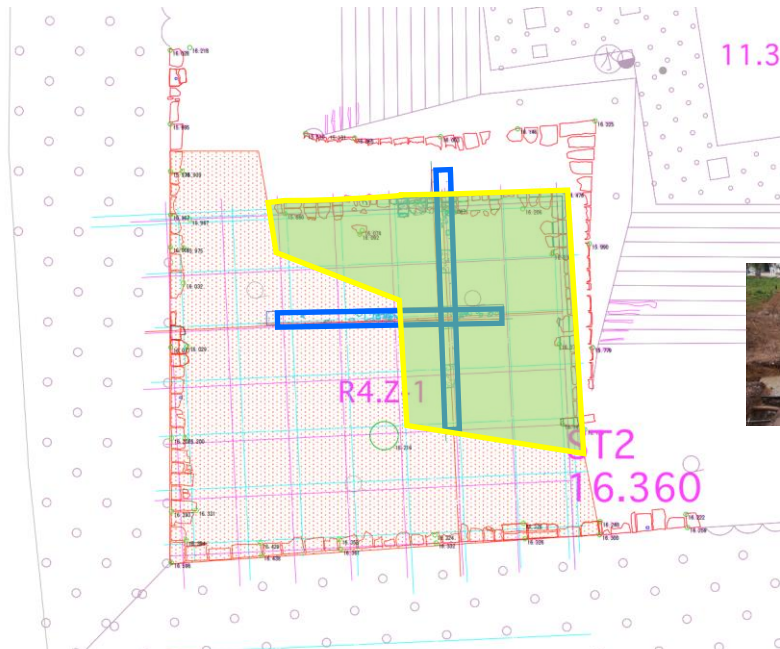
3) 解析・補強工法検討（11月～3月）

- ・石垣の安定解析
- ・石垣補強の必要性や補強方法の検討

※石垣調査解析については、最新の知見が得られている熊本城の事例を参考に、城郭石垣の専門家の意見を聞きながら、進めていく。

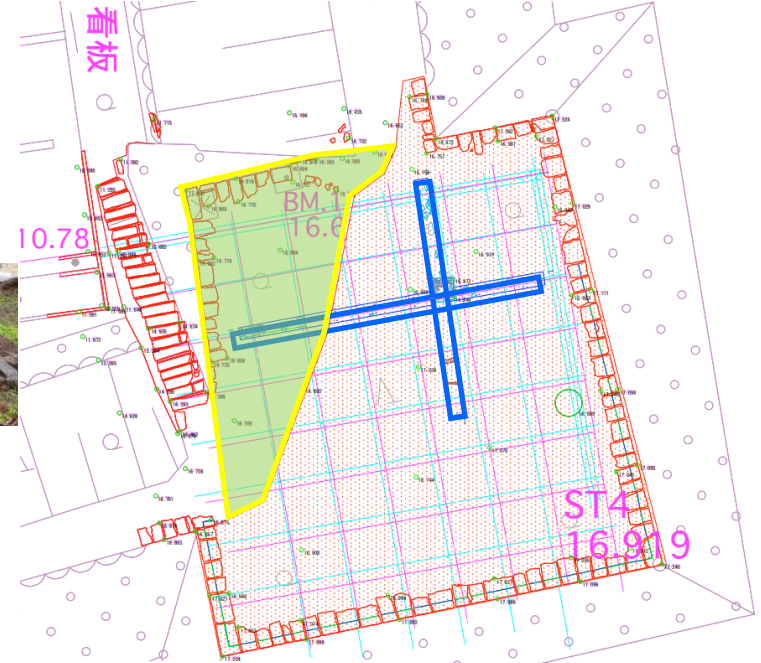
令和5年度 遺構調査 (案)

【坤櫓】



R 4 トレンチ調査

【巽櫓】



- R 5 表土はぎ調査
- R 4 トレンチ調査
- 1スパン：6尺3寸の場合
- 1スパン：6尺5寸の場合
- 過去の石垣修復工事で攪拌された範囲

【調査内容】

- ・ 実測から坤櫓の柱の間隔は6尺3寸と考えられていたが、令和4年度のトレンチ調査で6尺5寸間隔とみられる礎石を確認
- ・ 柱の間隔が確定できないため、追加調査を行い、柱の間隔を確定して坤櫓の大きさを決める必要
- ・ 古写真がなく、坤櫓の出入口2箇所の位置や幅がわからないため、調査を行い、場所等を推定する必要



- 令和5年度は、坤櫓および巽櫓の過去の石垣修復工事で攪拌されていない範囲において、表土（深さ50cm程度）をはぎ、礎石の位置や間隔を確認するとともに、礎石の痕跡から坤櫓の出入口を調査

令和5年度 石垣調査解析（案）

【調査内容】

- ボーリング調査 5箇所
（既存ボーリングデータ利用 2箇所）
- 土質調査、試験 1式（土の種類、強度、粒度など）
- 石垣の安定解析 6断面
- 石垣補強の必要性や補強方法の検討 1式

